



Futtsu 議会だより

No.142 平成19年8月10日
Summer 2007

発行／千葉県富津市議会
編集／千葉県富津市議会 議会広報委員会
〒293-8506 千葉県富津市下飯野2443
Tel. 0439-80-1331 Fax. 0439-80-1350

団体「小型ポンプの部」で、準優勝に輝いた第3分団。
個人賞では、2番員・小柴圭一郎さんと3番員・鈴木武士さんが
最優秀賞に選ばれました。



第43回千葉県消防操法大会が、7月28日に千葉県消防学校屋外訓練場（千葉市）で開催され、
君津支部代表として、富津市消防団・第3分団と第7分団が出場しました。



団体「ポンプ車の部」で、努力賞になった第7分団。
個人賞では、1番員・浅野司さんが最優秀賞に選ばれました。



昨年9月、金谷小学校で開催された富津市防災訓練。
今年の防災訓練は、9月2日に市民ふれあい公園で行われます。

6月定例会の内容 …………… 2P
個人質問(9名) …………… 3～7P
富津市議会広報委員会に視察 … 7P
トピックス・定例会日程 … 8P

7月16日午前10時13分、新潟県中越沖地震が発生。
7月20日、富津市議会として、新潟県に5万円の
義援金を送りました。

平成19年6月定例会

6月定例会は、6月1日から20日までの20日間開催され、議案9件・陳情3件について審議を行いました。主な内容をご報告します。

●国民健康保険税が一部変わります。

限度額の変更

56万円

年間の国民健康保険税の限度額（介護保険分を含まない、医療分）が、これまでの53万円から56万円になります。納税額の多い方の負担が増えます。平成19年度分から適用されます。

医療分	
所得割	課税総所得額の7.4%
資産割	固定資産税額の26.0%
均等割	加入者数×23,000円
平等割	一世帯につき 26,000円
課税限度額	560,000円

限度額の改正による影響額は

戸数：約 383世帯
税額：約1,050万円

●市営住宅諏訪団地が廃止されました。



49年間使用された諏訪住宅

昭和33年から使用されてきた市営住宅諏訪団地（千種新田・諏訪神社近く）が廃止されました。すでに殆どの入居者はおりませんでした。残っていた数世帯の方も転居されました。

●人事案件が承認されました。

◆人権擁護委員

	氏名	住所	任期
退任	鈴木 啓五	下 飯 野	H. 17. 10. 01~H. 19. 03. 31
退任	北川 正衛	大 堀	H. 18. 10. 01~H. 19. 05. 31
推薦	鱈 紘一	前 久 保	H. 19. 10. 01~H. 22. 09. 30
推薦	浅見喜代志	大 堀	H. 19. 10. 01~H. 22. 09. 30
現委員	伊藤 敏行	上	H. 18. 10. 01~H. 21. 09. 30
"	高沢 昭次	湊	H. 18. 04. 01~H. 21. 03. 31
"	深津 幸三	佐 貴	H. 17. 10. 01~H. 20. 09. 30
"	平野 和子	千種新田	H. 17. 10. 01~H. 20. 09. 30
"	齋藤恵津子	萩 生	H. 17. 10. 01~H. 20. 09. 30
"	関谷千恵子	豊 岡	H. 17. 10. 01~H. 20. 09. 30
"	酒井ハナ子	富 津	H. 17. 10. 01~H. 20. 09. 30

* 今回の人事案件は推薦2件

◆富津市監査委員

	氏名	住所	任期
退任	平野 正明	小 久 保	H. 15. 07. 01~H. 19. 06. 30
新任	高橋 聖	西 川	H. 19. 07. 01~H. 23. 06. 30
現委員	小林 新一	豊 岡	H. 18. 05. 12~H. 20. 04. 24

* 今回の人事案件は新任1件

●常任委員会で協議した内容について報告します

総務常任委員会

○第2次行財政改革の進捗状況について
平成18年度中に完了した項目について、完了報告書18件の報告がありました。

教育福祉常任委員会

- 「富津市特定健康診査等実施計画」の策定について
40才から74才の方を対象に、平成20年度から5ヵ年間行われる健康診査等の説明がありました。
- 「いきいきふっつ障害福祉プラン」の策定について
「障害者自立支援法」を踏まえつつ、現在進行している第1期計画の見直しをすすめ、平成21~23年度の計画を策定する説明がありました。
- 学校統廃合に関わる最近の経緯について
平成21年3月までに統廃合の案をまとめる計画について説明がありました。
- 富津中学校校舎改築工事の進捗状況について



予定通り順調に進んでおり、今年10月に1期工事が完了し、来年10月に2期工事が完了予定。

- 複合施設に関わる最近の経緯について
候補地として、富津郵便局周辺も加わったと説明がありました。

建設・経済常任委員会

- 水道事業の関係について
第三次拡張事業の進捗状況と認可区域外の給水について及び「君津地域水道事業のあり方検討会」の設置について説明がありました。
- 青木地区地区計画の変更について
土地利用計画の変更について説明がありました。

●陳情を審議し、意見書を提出

●陳情の件名と陳情者（3件）

- 地域手当の県内格差支給是正／千葉県教職員組合君津支部
- 国の平成20年度教育予算拡充／千葉県教職員組合君津支部
- 義務教育費国庫負担制度の堅持／子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体千葉県連絡会

陳情については、担当の教育福祉常任委員会で、活発な質疑応答・討論の結果、全員の賛成で採択され、その陳情書は本会議で全員の賛成で可決され、国に意見書を提出することとなりました。

*紙面の都合上、名称を以下のように省略します。
 企財部長（企画財政部長） 健福部長（健康福祉部長）
 経環部長（経済環境部長） 選管（選挙管理委員会事務局長）

富津市の現状と第2次実施計画、環境問題の取り組みについて



石井 志郎
議員

問 第1次実施計画の成果と反省点、第2次実施計画の重点施策、環境問題、現状と今後の課題。

市長 成果は128事業の内5事業は計画どおり終了、継続事業は第2次実施計画で引き続き予算措置をした。反省点は、事業の達成度など具体的な検証ができていない。当初予算とリンクさせ141の事務、事業を選定、重点施策は青堀駅周辺整備、学校施設の改修や防災関係の諸施策、企業立地の推進等。関係施策や地域と一体となった推進・啓発のほか、大気や水質などは調査や監視体制の強化を図り、必要に応じて県との連携のもと事業者等への指導を行うなど、環境の保全に努める。

問 幹線道路計画、県などへの要望と優先順位は。

建設部長 国道・県道・市道を有機的に接続し、事業効果が早期に図られるよう優先順位を決め県へ要望している。

問 佐貫城址公園整備計画が第2次実施計画で隔年に変更されたが、
経環部長 第1次実施計画で18年度は駐車場を整備、19年度以降は樹木の植栽を予定していたが、第2次実施計画では千葉県サクラの

会よりサクラの苗木の無償交付を受け植栽を計画的に行う。

問 降下ばいじんの数値について。

経環部長 最大値は大堀で18年4月に11・6トン、同測定値の最小は8月に2・1トン、平均6・1トン、17年と比較して若干増えた。

問 市内の残土埋立の現状は。

経環部長 市内の18年度申請・許可件数は共に29件、総面積は5万6千㎡、県の許可は2件5万3千㎡。市の19年度は、現在3件の申請があり1件を許可した。

問 駅周辺の放置自転車の現状は。

市民部長 青堀駅の180台は撤去、大貫駅は200台の内60台撤去、残り140台と佐貫町駅・上総湊駅各20台は順次撤去する。



大貫駅前の放置自転車（撤去前）

高齢者福祉について



長谷川 剛
議員

問 高齢化社会がなにか悪いかのような発言を聞く時があります。長年、日本の為、地域の為に一生懸命に働いて来た方々の老後を若い人達がしっかりと支えることが成熟した社会づくりだと思います。そこで高齢者福祉の施策について質問いたします。

問 介護保険制度の周知策は。

市長 民生・児童委員会や勉強会、出前講座やガイドブックの配布で周知を図っている。

問 保健・医療・福祉の連携策は。

市長 効果的な介護予防施策が統一的な体系のもとで提供されるよう環境の整備に努めていく。

問 介護予防の推進策は。

市長 地域包括支援センター等を中心として介護予防を図り、特定高齢者を把握し運動機能の向上や口腔指導・栄養指導を行っていく。

問 福祉・介護施設の充実策は。

市長 平成十九年度以降は小規模多機能型居宅介護施設及び地域包括支援センター等検討をしていく。

問 高齢者の社会参加について。
市長 高齢者の長年培った知識・経験・技能は貴重な財産と考えます。個々の多様性・自主性を尊重して支援していく。

問 バリアフリー化の推進は。
建設部長 高齢者や障害者に優しい道路整備や街づくりを推進する。
問 高齢者の交通安全対策は。
市民部長 高齢者交通安全教室開催やひとり暮らしの方達には訪問指導等を実施している。

問 介護施設での虐待はあるか。
健福部長 虐待の事例報告はない。

問 ドブ掃除は高齢者に配慮した方法をとって頂きたい。
建設部長 検討をしていく。

問 悪質商法から高齢者を守る策
経環部長 消費生活相談や出前講座を開催し啓発運動をしている。

問 シルバー人材センター設置は。
健福部長 今おこなっている高齢者生きがい就業事業の強化・拡大からスタートしていきたい。



地域包括支援センター（市役所1階）は介護予防の拠点です。

*紙面の都合上、名称を以下のように省略します。
 企財部長（企画財政部長） 健福部長（健康福祉部長）
 経環部長（経済環境部長） 選管（選挙管理委員会事務局長）

教育行政、スポーツ・レクリエーション及び地場産業の振興



永井庄一郎
議員

問 小中学校を取り巻く環境等が年々変化する中で問題提起のため今回の質問を取り上げてみました。

図書 ばなれと言われる中で小中学校での図書の活用について。

教育長 本に親しむ時間として、朝の読書の時間を設けたり、いろいろな方法を取り入れ図書を通して情報の獲得といった学習技術の育成を図っています。

問 児童生徒に係る図書費用の現状とこれからの対応について。

教育部長 他市と比較して低い数値であり、今後複合施設との連携で努力していききたい。

問 子供たちの関わる多くの事件が発生している中で、道徳教育はどのように行われているのか。

教育長 市では、生きる力の核となる豊かな人間性をはぐくむことを学校教育の指針の柱として道徳教育の充実を図っていきます。

問 給食費の未納をどう思うか。
教育長 学校現場では、子供たちには何ら義務教育の段階では責任はない。保護者の自覚を待つしかない。

問 小中学校統廃合問題の進展状況について伺う。
教育長 よりよい充実した教育環

境や教育水準の維持向上を検討してきた。今後は、懇談会を設置して意見を伺っていききたい。

問 スポーツ運動公園の活用は。

市長 施設の空き状況、行事予定などをHPで情報提供を行い効率的な施設の活用を図って行きたい。

問 スポーツ振興について市の取組状況は。

教育長 いつでも、どこでも気軽にスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう各体育施設の活用を図っていきます。

問 地場産業の振興に関して特産物販売施設等の集客施設についての今後の状況はどうなっているのか。

市長 検討委員会からの最終報告を受けた時点で内容検討をしよう性を出したいと考えています。



児童生徒の健全育成とスポーツの振興
 休日を活用し、野球を通じ心身を鍛え、
 チームワークを育む子供たち

大堀地区の

諸問題について



平野 良一
議員

問 青木土地区画整理事業区域内の造成地における飛砂対策は。

市長 周辺住民への対策を早期に講じるよう青木土地区画整理組合に指導しており、応急対策として散水車による水まきを行っている。

建設部長 植物の種まき及び防砂ネットの設置を準備している。

問 大堀曾根新田地先の埋め立て造成工事現場における飛砂防止及び排水対策について。

市長 飛砂対策は、千葉県が許可条件として、また、本市の見解書の中で周辺住民等に迷惑をかけることなどの条件を事業者側に提出している。

排水対策 は、埋め立て区域内に仮設沈砂池を設けるほか、周囲を土堰堤で囲み、雨水は場内処理により外部へ排出しないことで進められている。

建設部長 近隣人家の排水は、コンクリート製の排水をつくる予定。

問 青堀駅周辺の整備について。
市長 まちづくり交付金を活用した青堀駅周辺の都市計画道路及び生活道路を整備し、生活環境の改善を図り、引き続き計画的な整備を進め、都市的機能の充実に努めていく。分館の跡地利用は、青堀

駅前への価値観の高い場所であり、今後どういう利用ができるのか、検討の対象になると思われる。

問 駅、図書館及び行政が一つになった駅舎について

市長 駅舎は市内に6ヶ所あり、それぞれどういう利用の仕方ができるのか、今後の検討課題。

問 防災行政無線の難聴地域の解消について。

市長 住環境の変化や風向きにより子局のエリアとされている地域の方から難聴等の苦情が寄せられている。増設も視野に入れながら、その都度、原因を調査し、スピーカーの種類や方向を変えたり、時差をつけて放送するなどの調整を行い対応を図っている。



青木土地区画整理事業区域内の造成地

*紙面の都合上、名称を以下のように省略します。
 企財部長（企画財政部長） 健福部長（健康福祉部長）
 経環部長（経済環境部長） 選管（選挙管理委員会事務局長）

選挙の投開票の現状と改善策



藤川 正美
議員

問 市内には25の投票所があるが、面積と有権者数に大きな違いがある。行財政改革の視点からも統合を考へては。

選管 対象の区と協議をしたが、投票所への距離が遠くなり投票率の低下になるとの理由で、理解を得られなかった。

問 選挙の経費について、平成16年度の市議選では約4千万円、参院選は2千4百万円、市長選は1千8百万円、知事選は2千万円になっている。内訳の職員手当等が958万円になっているが、この人数は。

選管 174名で、日額一人、3万5千円を支払っている。その他の人件費も含め、この金額になっている。

問 開票時間の比較で、富津市長選と大阪市長選（投票者数がほぼ同じ旭区）を例に比べると、立候補者数／富津市2名・大阪市4名、投票者数2万7600名・2万8486名、事務従事者数135名・127名、開票時間／富津市1時間53分・旭区57分。この結果を見て選管の感想は。

選管 今後、開票結果を早く市民にお知らせする方法として、検討

・研究していきたい。

問 開票作業では、「動きやすい服装」「足下は運動靴」「作業台の高さを調整し、効率的に動けるように」「司令塔係がいて、票の流れを見ながら指示を出し職員を誘導する」「疑問票の判定のために事前に効力判定マニュアルを作成する」などを実施すると開票作業がアップする。その結果、「経費削減と職員の疲労軽減になった」「正確性が向上した」「自ら考え実践することを経験した職員は、日常業務の取り組みも変化した」などの良い効果があったと、先進自治体の選管の報告がある。このことに関して、市長の感想は。

市長 選挙管理委員会ですら迅速で効果的なやり方を検討してもらおうと同時に、市としても、そのような要望を指示していく。



行財政運営の効率化、計画的な運営について



岩本 朗
議員

問 行政評価導入についての取り組みについて伺います。

市長 行政評価制度導入については、平成17年の庁議において当面は基本計画及び実施計画における事務事業の要求に際し、目標管理等の考えを一部取り入れることにより対処することとされ、制度化については行政評価の手法や他の自治体の動向も考慮した中で検討することとしております。

問 目標管理を一部取り入れた実施計画について伺います。

企財部長 実施計画では、目標数値の無い事業が非常に多い結果になっています。行政が事務を行う上で、目標数値が設定できるものと、設定しづらいものがあります。が、今後、できるだけ目標数値を掲げていきたいと考えています。

問 評価制度導入に向けての検討は行っているのか伺います。

企財部長 制度の導入については、市町村あるいは国の動向を見ながら、今後検討していくということになっておりますが、現在のところ具体的に導入に向けての検討を行った経緯はございません。

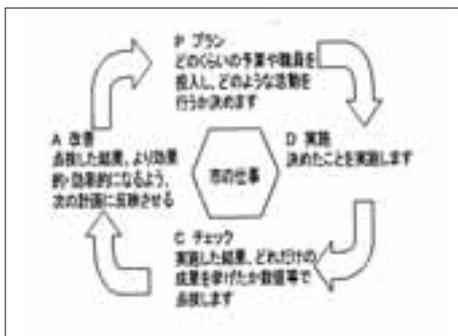
問 事業の評価、拡大・縮小・存廃等の検討を行う仕組み、富津市

の取り組みについて伺います。

企財部長 現在、検討を行う仕組み、組織で検討しているようなものはございません。

問 実施計画の各事業について、結果を重視するのか、成果を重視するのか伺います。

企財部長 成果を重視します。ただ、成果を計るためには目標数値を掲げて、それがどういう波及効果、結果を見なければ成果重視とは言えないと考えております。



行政評価とは、市が行う政策・施策や事業が市民にもたらす成果を評価する制度です。

*紙面の都合上、名称を以下のように省略します。
 企財部長（企画財政部長） 健福部長（健康福祉部長）
 経環部長（経済環境部長） 選管（選挙管理委員会事務局長）

住民税負担増の中での、 国民健康保険の施策を問う



岩崎 二郎
議員

問 政府の税制改悪による定率減税完全廃止、老年者控除廃止などと共に、三位一体改革の税源移譲でこの6月から市民の住民税負担が大幅に増加します。その一方で、市には市税として増収になります。その総額は市の試算によりますと、平成19年度は約2億5千万円とのこととです。こうした状況の中で、市の本来の役割であり、市民の命と健康を守る上で重要な国民健康保険施策について質問します。

市長 平成19年度予算では、積立金を繰り入れるなど厳しい財政運営であり、国保税の引下げは考えていません。

問 国保会計の観点から言えばそうなるかも知れませんが、市民の視点から見ますと、平成18年度一人当たりの保険料の負担額は、年額概算で国保税7万6千円、介護保険料5万円、トータルで12万6千円です。4人家族なら年間50万円です。一方、国保税の延滞や未納の世帯には、資格証明書、短期被保険者証が交付されていますがその数は昨年末で合計1,268世帯で加入世帯11,724の1

割を超えています。この根底には、住民の負担能力を超えた高い保険税があるのではないのでしょうか。その点では、引き下げる方向で検討すべきと思うが、改めて市長の見解は。

市長 国保は、国保を利用される方の意識の問題と特別会計なのでその会計内で賄う点が大い。

問 国保税の減免取扱要領を策定する考えはないか。

市長 国保税の減免規定は、市の条例で定めている。具体的な減免に当たっては、申請者各々の状況が異なることから、条例に基づき調査し、該当する場合は減免をしている。よって、今後も減免取扱要領は設けず個別に対応していく。



国保税を1年以上滞納すると保険証を返して代わりに資格証明書が交付されます。

少子高齢化対策と ボランティア活動について



澤田 春江
議員

問 富津市の乳幼児医療費助成を本年10月より県と同様に実施ということですが、近隣市と格差のない助成拡充を図って欲しい。

※県は通院助成対象を4歳児未満近隣市（君津市、木更津市）は市独自助成で未就学時迄。

市長 状況を勘案し、その内容を再度検討していく。

問 市内の施設にある遊具についての安全点検、管理はどのように行われているか。

市長 都市公園は建設部街づくり課、児童遊園地や子どもの遊び場は健康福祉部児童家庭課又は指定管理者等の委託先が管理し巡回確認をし、安全確保を図っている。

問 子育て応援サポーター養成講座が実施されたが内容はどのようなものか。応援サポーターが学童保育所の指導員として活動できないだろうか。

健福部長 18、19年の2年間のみ実施される県の補助事業であり、養成後は子育ての場でアドバイザーとして活動。指導員については今後の課題として検討する。

問 高齢者世帯の支援をどうするか。

健福部長 老人世帯の対策は急を

要している事から検討中である。

問 ボランティア活動のバランスと内容、ニーズを捉えた心あるボランティアを見出すべく見直しの必要性があるのではないか。

市民部長 18年8月富津市NPO協議会を設立、また、市民ニーズとボランティア活動の関係を社会状況、介護保険制度の変貌等を見据え考慮して行く。

問 団塊世代の方々の行政としての対応についての考えは。

市長 豊富で質の高い人材、能力をまちの先生などのように生かし、参加しやすい環境作りに取り組む。

市民部長 行政にとって大きな財産とし、それぞれの人生設計を大切に考え、行政と市民がどう協働して行くか課題として行く。



子育て応援サポーターが保育所の開放日にお手伝いとして活動をしている。

面整備・道路整備と まちづくりの考え方



中後 淳
議員

問 市役所庁舎周辺のまちづくりの進め方は。

市長 庁舎敷地を含む土地画整理組合の解散により、面整備から道路整備を主に進める方向に転換する。庁舎周辺に公共施設誘導し、沿道を活用したまちづくりを図っていききたいと考える。

問 区画整理の解散など、状況が大きく変わっており、道路整備を主に進める上でも、幹線道路網計画を見直す必要があると思うが。

市長 社会情勢の変化などもあるので、一部検討する必要がある。問 館山道・内房バイパスの開通と周辺地域の開発手法は。



内房バイパスの開通により、周辺地域の交通状況は大きく変わりました。

り、内房バイパス沿線も一部農業振興地域があるなど開発が難しい。

問 企業・個人の地権者との調整会議を行政主導で進める考えは。

企財部長 道路もいよいよ開通するので、会議を進めていきたい。問 進めていきたいというのは、ずっと昔から言っていると思うが。

市長 状況が変わってきたので、進めていきたい。

問 内房バイパスの開通により湊数馬線（上総湊駅〜天羽高校）の交通量はどのくらい変わったか。

建設部長 市がバイパス開通前後に2回ずつ行った交通量調査の結果、大型車90%減、乗用車53%減、歩行者15%増となった。

問 歩道整備の具体的な対応策は。

市長 現在の道路の幅員の中で、歩行者が安全な道路形態を保てるよう調整をしていきたい。

問 日本全体でまちづくりの方向性が変わっており、富津市も市全体の土地利用について考え直すタイミングだと思うが。

市長 考えていく必要がある。問 市を良くしたいという市長の気持ちの強さを具体的な事例で示してほしい。

市長 そのように努めていきたい。

富津市の議会広報委員会に3市が視察に見えました！



議会だよりを、議員自ら制作するようになって、他市からの視察が3市目となりました。最初は山形県天童市、2回目は岐阜県各務原市、そして今回は鴨川市。

市民に議会の内容を伝える議会だよりの充実は、議員の役割として、全国的な関心事となっています。それを物語るように、毎回の視察では、真剣な質疑応答、活発な情報交換が行われてきました。いつも予定時間をオーバーする状況です。これらの視察に刺激され、富津市の議会広報委員会も、更に議会だよりの充実に力を注いでまいります。

平成19年6月27日、近隣の鴨川市から視察に見えました。今年の6月に鴨川市の発行する広報誌がタブロイド判（広報ふつつと同じ大きさ）から、A4判になったことから、議会だよりもA4判にしてはどうかと検討。県内の議会だよりを調査した結果、富津市の議会だよりが目にとまり、今回の視察となったとのことでした。

写真は、議場を見学する鴨川市議会報編集委員会のメンバーと議会事務局職員。



平成18年1月、各務原市の視察を受ける。



平成17年11月、最初の視察となった天童市。



小学生対象に行われた「高速道路作文・絵画コンクール」では、作文の部で鳥海七子さん（天神山小3年）が優秀賞に、高橋涼香さん（大貫小5年）が入選に。絵画の部で、木村健太郎君（飯野小5年）が入選し、この日の式典で表彰されました。

館山道 全線開通！



7月4日、君津ICと富津中央IC間の9.2km（総事業費444億円）が開通し、ついに館山自動車道が全線開通しました。南房総地域にとって念願の全線開通であり、観光シーズンの混雑緩和や、時間や経費の縮減による年間約73億円の経済効果、CO₂、NO_x等の沿道環境の改善などが見込まれています。

富津市においても、首都圏とより近くなることによる経済効果・活性化が見込まれる一方、南房総への通過点になることも懸念されているので、活性化に繋がるような施策展開が期待されるところです。

羽田空港 再拡張事業



その後の変化

富津市総合社会体育館近くで始まった、再拡張事業のプラント。

前号でお知らせした、山砂搬出ルートが変更されました。富津市内では予備ルートの青堀→市役所前→吉野地区→国道127号が廃止されました。また、新たに金谷港からの搬出ルートが示され、富津中央インターから富津金谷インターまでの館山自動車道を通り、1日延べ115台のダンプカーで山砂が搬出されます。

また、新富地区の建設外工事では、予定されたケーソンの製作は中止され、代わりに橋梁の橋げたが製作されます。工事に伴い青木地区には約120人収容の作業員宿舎が建設されます。

東京湾口道路 建設促進シンポジウム



富津市と富津市東京湾口道路建設促進議員連盟が主催し、7月28日（土）富津公民館大ホールで行われました。基調講演は、「湾口道路が拓く房総の未来」と題し、高橋洋二教授（日本大学総合科学研究所）が述べ、パネルディスカッションでは、高橋洋二教授がコーディネーターとなり、「高齢化社会に向けての今後の観光のあり方」について、パネリスト溝尾良隆教授（城西国際大学）、廻洋子教授（淑徳大学）、室田篤利氏（三菱総合研究所）が論じ合いました。

多くの市民も参加し、湾口道路と観光の在り方について刺激的な討論会となりました。

水不足が心配されているのが嘘のように、今年は、はじめじめシトシトと梅雨らしい日が続きました。日本は四季折々の変化、梅雨の雨、夏の太陽などが自然の恵みに不可欠で、また春の桜や、美味しい新米を食べるたびに「日本人でよかった！」と実感させてもらえます。温暖化や異常気象など地球規模の環境変化が当面の大きな課題になることは間違いなさそうです。爽やかな秋を迎えるまで、暑い夏はエアコンに頼らず、先人の知恵を拝借して、団扇や風鈴で「涼」を取ってみてはいかがでしょうか。（ちゅうご）



26日(水)	21日(金)	20日(木)	19日(水)	14日(金)	13日(木)	12日(水)	11日(火)	10日(月)	7日(金)	6日(木)	3日(月)
10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時
議案審議	委員報告	決算特別委員会	決算特別委員会	常任委員会	常任委員会	常任委員会	議案質疑	予備日	一般質問	一般質問	開会